

大泉町
男女共同参画社会に関するアンケート
報告書

平成27年11月 大泉町

目 次

調査の概要.....	1
調査結果.....	3
回答者の属性について.....	3
1 家庭や教育に関することについて.....	7
2 労働や社会参画に関すること.....	16
3 老後の生活に関することについて.....	23
4 ドメスティック・バイオレンスについて.....	25
5 男女共同参画社会づくりについて.....	34
調査票.....	38

調査の概要

(1) 調査の目的

平成27年度に「第3次大泉町男女共同参画推進計画」を策定するにあたり、町民の男女共同参画に関する意識の把握及び町が取り組むべき施策の基礎資料とするため、住民意識調査を実施しました。

(2) 調査実施期間

平成27年1月30日（金）～平成27年2月23日（月）

(3) 調査実施対象者

町内在住の20歳以上の方を無作為抽出。合計1,000名

(4) 調査票の配布・回収方法

返信用封筒を同封して発送・郵送回収

(5) 調査票の回収数及び有効回収率

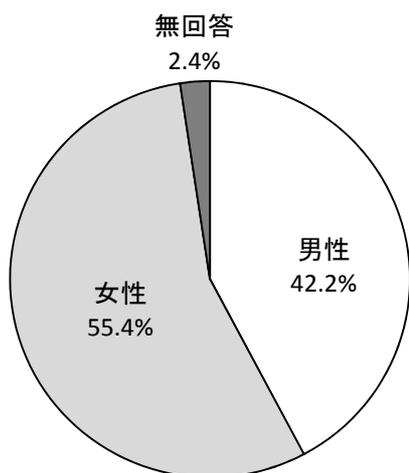
対象	配布数	回収数	回収率
町民	1,000	334	33.4%

調査結果

回答者の属性について

F1. あなたの性別は

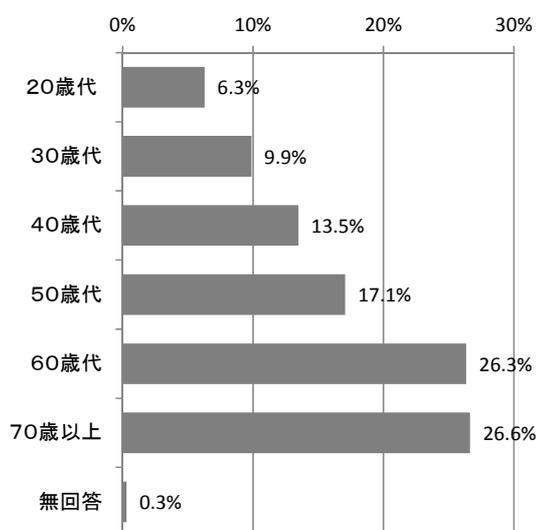
回答者の性別は、男性42.2%、女性55.4%とやや女性の方が多くなっています。



項目	度数	構成比
男性	141	42.2%
女性	185	55.4%
無回答	8	2.4%
回答者数	334	100.0%

F2. あなたの年齢は

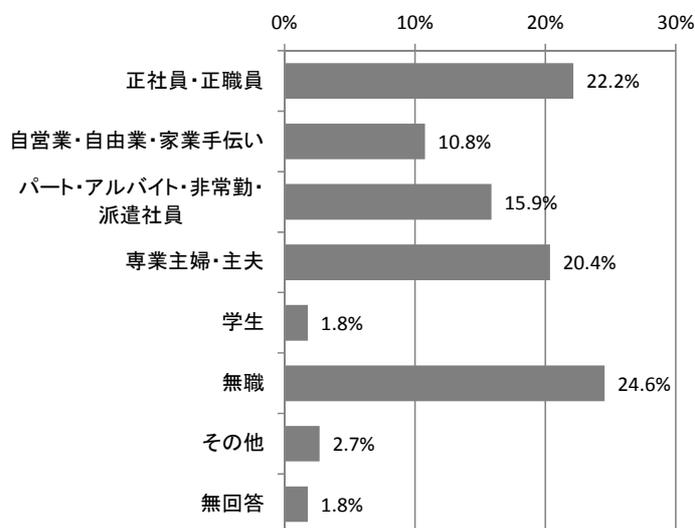
年齢構成では、「20歳代」が最も少なくなっており、年齢が上がるに従い割合が多くなっています。最も多い回答は「70歳以上」の26.6%、続いて「60歳代」の26.3%となっています。



項目	度数	構成比
20歳代	21	6.3%
30歳代	33	9.9%
40歳代	45	13.5%
50歳代	57	17.1%
60歳代	88	26.3%
70歳以上	89	26.6%
無回答	1	0.3%
回答者数	334	100.0%

F3. あなたの職業は

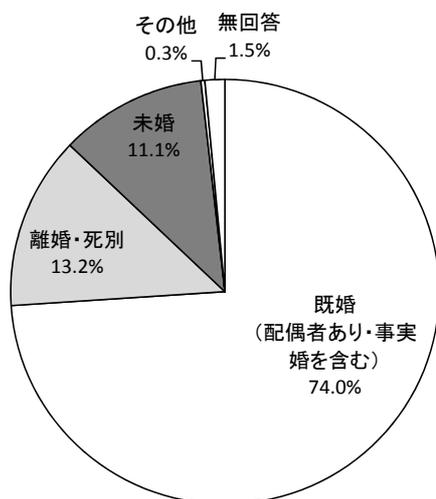
回答者の職業は、「無職」が24.6%と最も多くなっており、続いては、「正社員・正職員」の22.2%、「専業主婦・主夫」の20.4%となっています。



項目	度数	構成比
正社員・正職員	74	22.2%
自営業・自由業・家業手伝い	36	10.8%
パート・アルバイト・非常勤・派遣社員	53	15.9%
専業主婦・主夫	68	20.4%
学生	6	1.8%
無職	82	24.6%
その他	9	2.7%
無回答	6	1.8%
回答者数	334	100.0%

F4. あなたは次のうちどれに該当しますか。

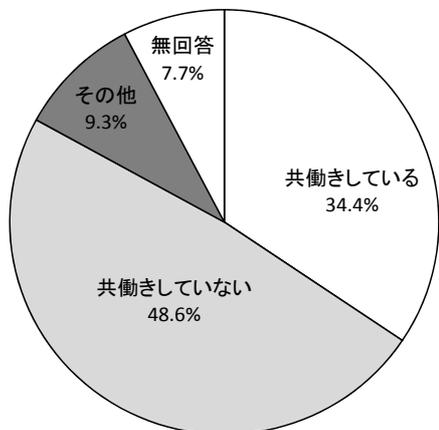
「既婚（配偶者あり・事実婚を含む）」と回答した方が74.0%と最も多くなっています。また、「離別・死別」と回答した方は13.2%、「未婚」と回答した方は11.1%となっています。



項目	度数	構成比
既婚（配偶者あり・事実婚を含む）	247	74.0%
離婚・死別	44	13.2%
未婚	37	11.1%
その他	1	0.3%
無回答	5	1.5%
回答者数	334	100.0%

F5. 【F4で既婚と回答した人にお尋ねします】あなたは共働き（パート、アルバイト等を含む）ですか。

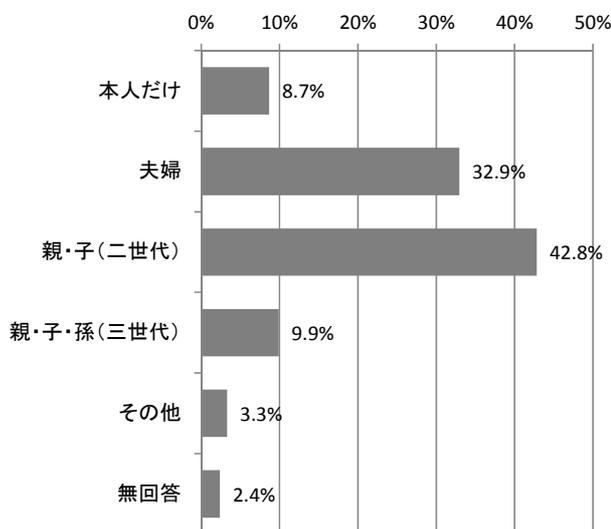
「共働きしていない」と回答した方が48.6%と最も多く、「共働きしている」と回答した方は34.4%となっています。



項目	度数	構成比
共働きしている	85	34.4%
共働きしていない	120	48.6%
その他	23	9.3%
無回答	19	7.7%
全体数	334	
非該当者数	87	
回答者数	247	100.0%

F6. あなたの家族構成は

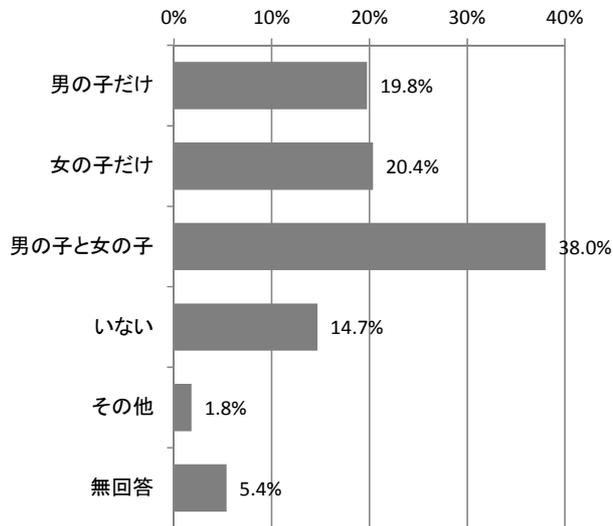
「親・子（二世代）」と回答した方が42.8%と最も多くなっており、続いて「夫婦」の32.9%、「親・子・孫（三世代）」の9.9%となっています。また、「本人だけ」と回答した方は8.7%となっています。



項目	度数	構成比
本人だけ	29	8.7%
夫婦	110	32.9%
親・子(二世代)	143	42.8%
親・子・孫(三世代)	33	9.9%
その他	11	3.3%
無回答	8	2.4%
回答者数	334	100.0%

F7. お子さんは、どのような構成ですか。

「男の子と女の子」と回答した方が38.0%と最も多くなっており、続いて「女の子だけ」の20.4%、「男の子だけ」の19.8%となっています。また、「いない」と回答した方は14.7%となっています。



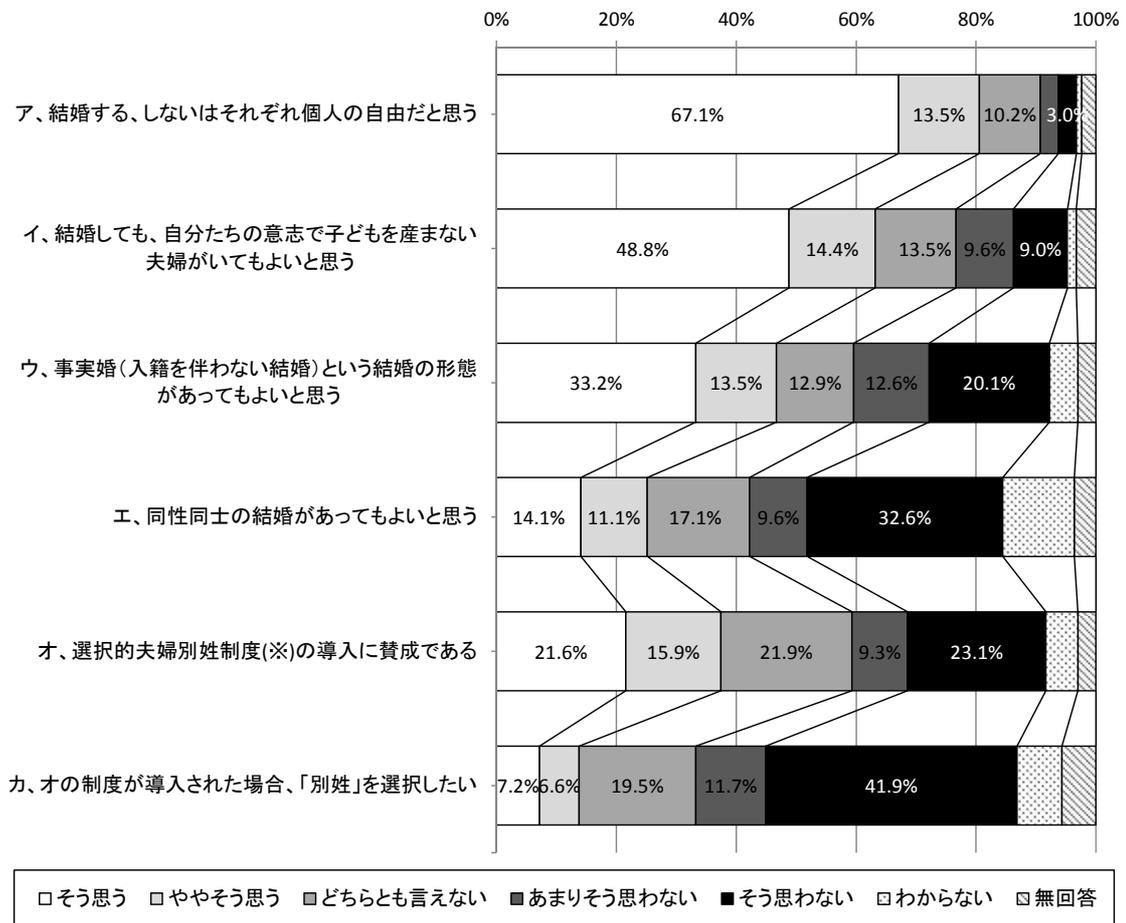
項目	度数	構成比
男の子だけ	66	19.8%
女の子だけ	68	20.4%
男の子と女の子	127	38.0%
いない	49	14.7%
その他	6	1.8%
無回答	18	5.4%
回答者数	334	100.0%

1 家庭や教育に関することについて

問1 結婚に関して、どう思いますか。次のアからカについて番号（1～6）を1つずつ選んでください。

「ア、結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う」「イ、結婚しても、自分たちの意志で子どもを産まない夫婦がいてもよいと思う」「ウ、事実婚（入籍を伴わない結婚）という結婚の形態があってもよいと思う。」の項目において、一番割合の高かったものが「そう思う」との回答で、それぞれ67.1%、48.8%、33.2%となっています。

一方、「エ、同性同士の結婚があってもよいと思う」「オ、選択的夫婦別姓制度の導入に賛成である」「カ、オの制度が導入された場合、「別姓」を選択したい」の項目において、一番意見の多かったものが「そう思わない」で、それぞれ32.6%、23.1%、41.9%となっています。

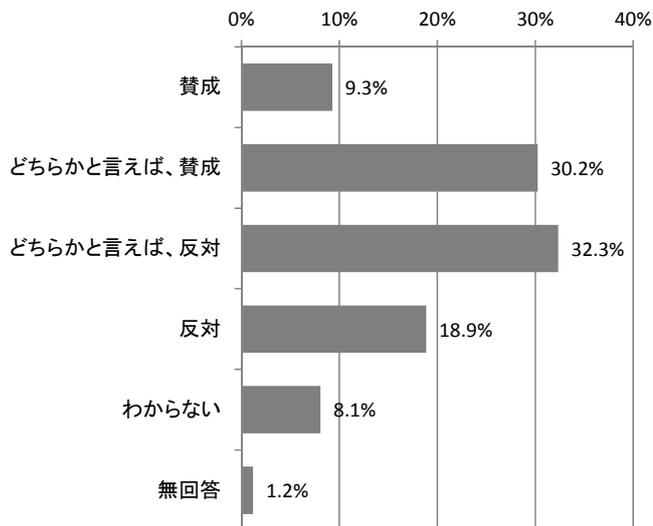


項目	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	回答者数
ア、結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う	224	45	34	10	10	3	8	334
イ、結婚しても、自分たちの意志で子どもを産まない夫婦がいてもよいと思う	163	48	45	32	30	5	11	334
ウ、事実婚(入籍を伴わない結婚)という結婚の形態があってもよいと思う	111	45	43	42	67	16	10	334
エ、同性同士の結婚があってもよいと思う	47	37	57	32	109	40	12	334
オ、選択的夫婦別姓制度(※)の導入に賛成である	72	53	73	31	77	18	10	334
カ、オの制度が導入された場合、「別姓」を選択したい	24	22	65	39	140	25	19	334

項目(構成比)	そう思う	ややそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	計
ア、結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う	67.1%	13.5%	10.2%	3.0%	3.0%	0.9%	2.4%	100.0%
イ、結婚しても、自分たちの意志で子どもを産まない夫婦がいてもよいと思う	48.8%	14.4%	13.5%	9.6%	9.0%	1.5%	3.3%	100.0%
ウ、事実婚(入籍を伴わない結婚)という結婚の形態があってもよいと思う	33.2%	13.5%	12.9%	12.6%	20.1%	4.8%	3.0%	100.0%
エ、同性同士の結婚があってもよいと思う	14.1%	11.1%	17.1%	9.6%	32.6%	12.0%	3.6%	100.0%
オ、選択的夫婦別姓制度(※)の導入に賛成である	21.6%	15.9%	21.9%	9.3%	23.1%	5.4%	3.0%	100.0%
カ、オの制度が導入された場合、「別姓」を選択したい	7.2%	6.6%	19.5%	11.7%	41.9%	7.5%	5.7%	100.0%

問2 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。1つ選んでください。

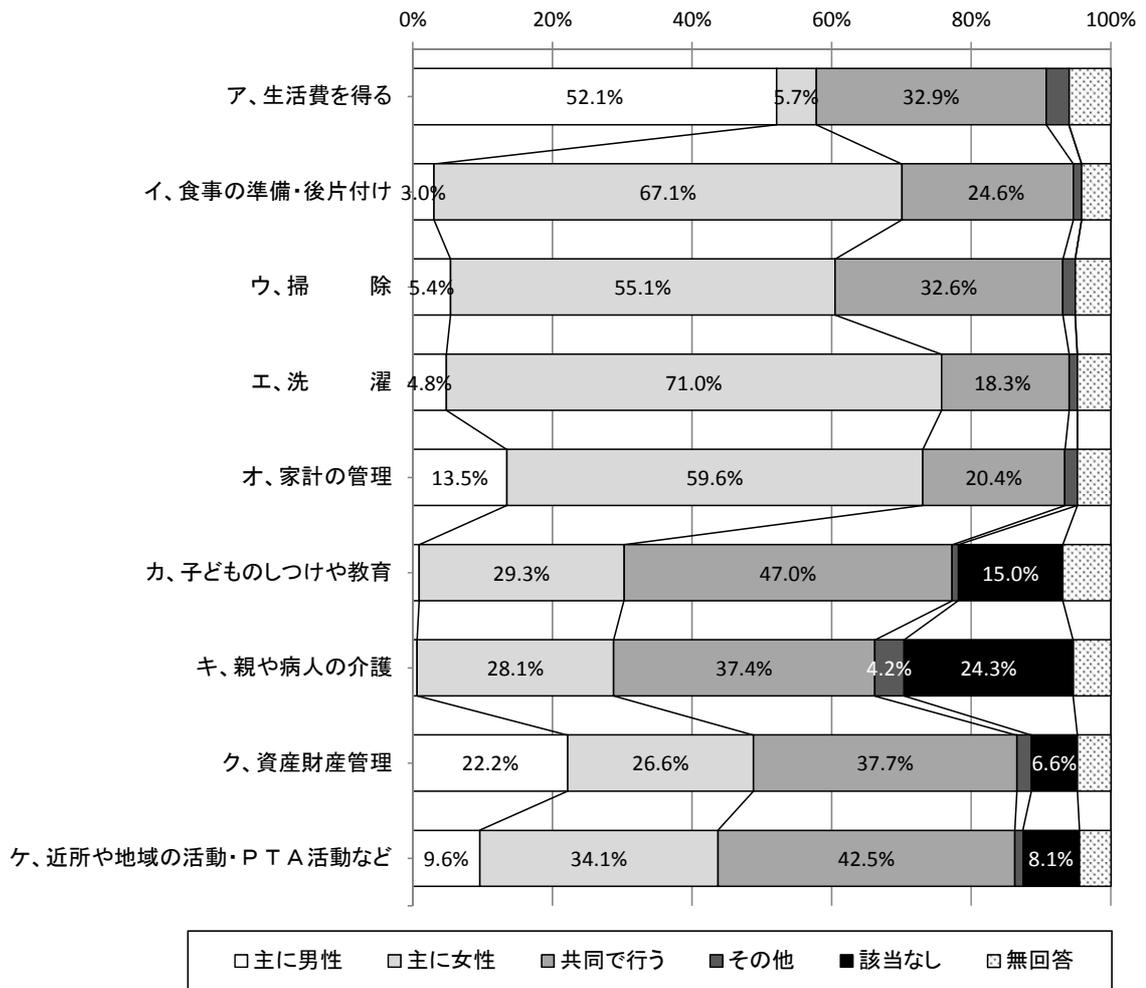
「どちらかと言えば、反対」と回答した方が32.3%と最も多く、続いて「どちらかと言えば、賛成」の回答が30.2%となっています。



項目	度数	構成比
賛成	31	9.3%
どちらかと言えば、賛成	101	30.2%
どちらかと言えば、反対	108	32.3%
反対	63	18.9%
わからない	27	8.1%
無回答	4	1.2%
回答者数	334	100.0%

問3 あなたの家庭では次の役割は誰が分担していますか。アからケについて番号（1～5）を1つずつ選んでください。

「ア、生活費を得る」の項目は、「主に男性」との回答が一番多く52.1%となっています。一方、「イ、食事の準備・後片付け」「ウ、掃除」「エ、洗濯」「オ、家計の管理」の項目において、「主に女性」と回答した方が一番多くそれぞれ、67.1%、55.1%、71.0%、59.6%となっています。また、「カ、子どものしつけや教育」「キ、親や病人の介護」「ク、資産財産管理」「ケ、近所や地域の活動・PTA活動など」は「共同で行う」との回答が一番多くなっています。

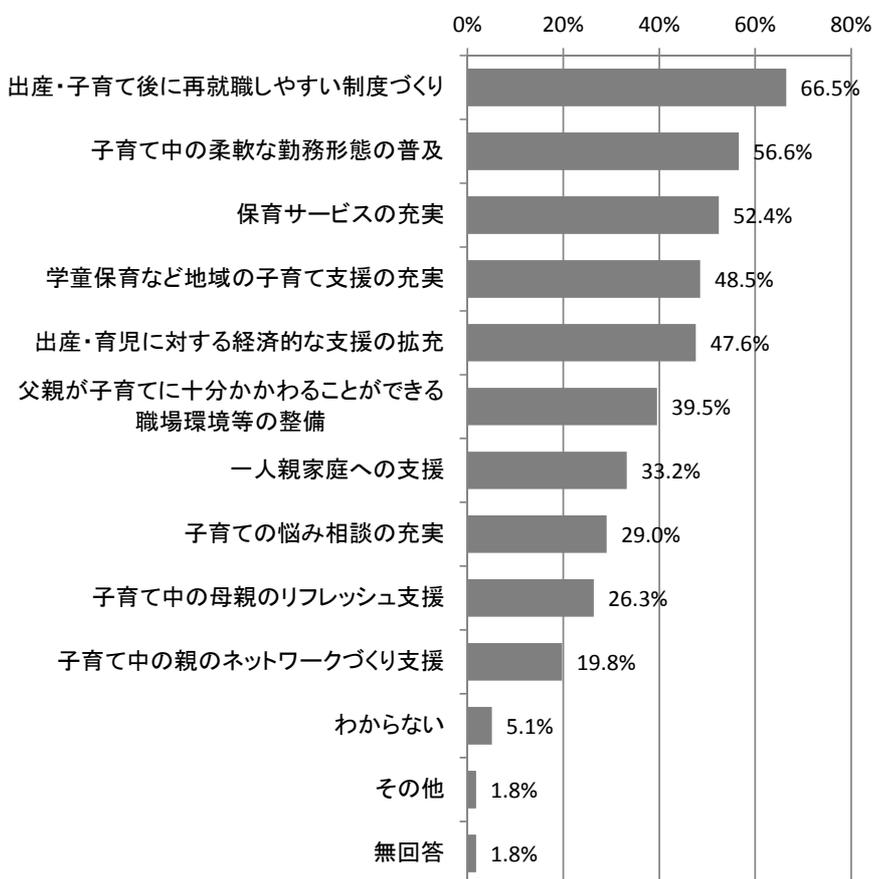


項目	主に男性	主に女性	共同で行う	その他	該当なし	無回答	回答者数
ア、生活費を得る	174	19	110	11	0	20	334
イ、食事の準備・後片付け	10	224	82	4	0	14	334
ウ、掃除	18	184	109	6	0	17	334
エ、洗濯	16	237	61	4	0	16	334
オ、家計の管理	45	199	68	6	0	16	334
カ、子どものしつけや教育	3	98	157	3	50	23	334
キ、親や病人の介護	2	94	125	14	81	18	334
ク、資産財産管理	74	89	126	7	22	16	334
ケ、近所や地域の活動・PTA活動など	32	114	142	4	27	15	334

項目(構成比)	主に男性	主に女性	共同で行う	その他	該当なし	無回答	計
ア、生活費を得る	52.1%	5.7%	32.9%	3.3%	0.0%	6.0%	100.0%
イ、食事の準備・後片付け	3.0%	67.1%	24.6%	1.2%	0.0%	4.2%	100.0%
ウ、掃除	5.4%	55.1%	32.6%	1.8%	0.0%	5.1%	100.0%
エ、洗濯	4.8%	71.0%	18.3%	1.2%	0.0%	4.8%	100.0%
オ、家計の管理	13.5%	59.6%	20.4%	1.8%	0.0%	4.8%	100.0%
カ、子どものしつけや教育	0.9%	29.3%	47.0%	0.9%	15.0%	6.9%	100.0%
キ、親や病人の介護	0.6%	28.1%	37.4%	4.2%	24.3%	5.4%	100.0%
ク、資産財産管理	22.2%	26.6%	37.7%	2.1%	6.6%	4.8%	100.0%
ケ、近所や地域の活動・PTA活動など	9.6%	34.1%	42.5%	1.2%	8.1%	4.5%	100.0%

**問4 子育てへの支援として必要なことは何だと思いますか。次の中から選んでください。
(複数回答可)**

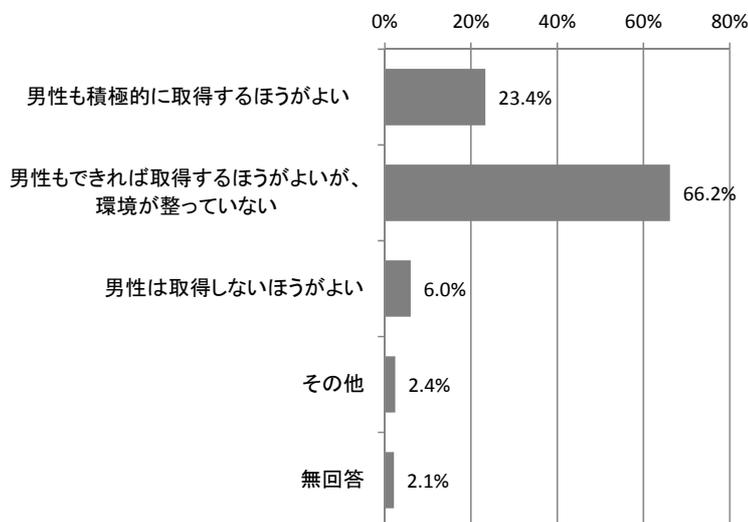
「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」と回答した方が66.5%と最も多く、次に多い回答が「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の回答が56.6%、「保育サービスの充実」の52.4%となっています。



項目	度数	構成比
出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり	222	66.5%
子育て中の柔軟な勤務形態の普及	189	56.6%
保育サービスの充実	175	52.4%
学童保育など地域の子育て支援の充実	162	48.5%
出産・育児に対する経済的な支援の拡充	159	47.6%
父親が子育てに十分かかわることができる職場環境等の整備	132	39.5%
一人親家庭への支援	111	33.2%
子育ての悩み相談の充実	97	29.0%
子育て中の母親のリフレッシュ支援	88	26.3%
子育て中の親のネットワークづくり支援	66	19.8%
わからない	17	5.1%
その他	6	1.8%
無回答	6	1.8%
回答者数	334	

問5 あなたは、男性の育児休業の取得についてどう思いますか。1つ選んでください。

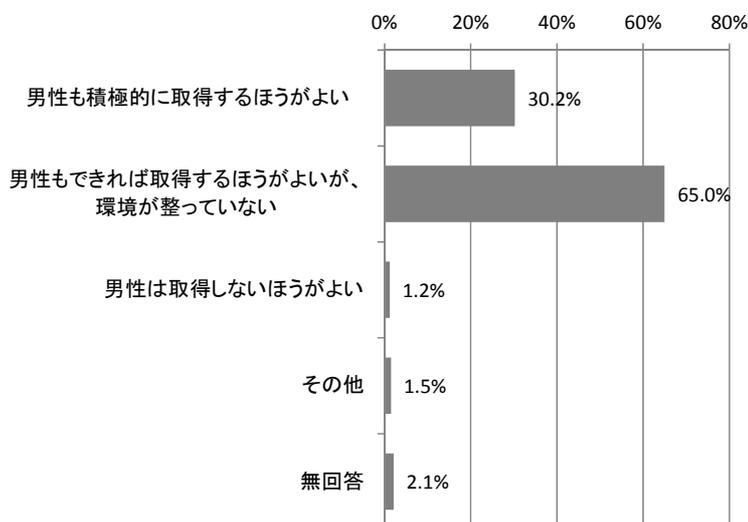
「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」と回答した方が66.2%となっています。「男性も積極的に取得するほうがよい」との回答は23.4%、「男性は取得しないほうがよい」は、6.0%となっています。



項目	度数	構成比
男性も積極的に取得するほうがよい	78	23.4%
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	221	66.2%
男性は取得しないほうがよい	20	6.0%
その他	8	2.4%
無回答	7	2.1%
回答者数	334	100.0%

問6 あなたは、男性の介護休業の取得についてどう思いますか。1つ選んでください。

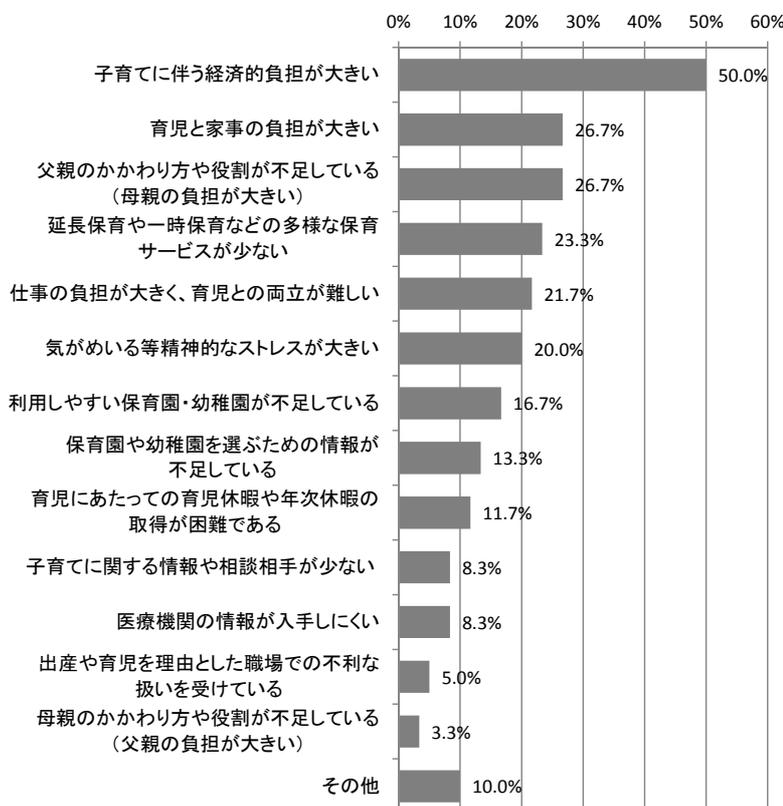
「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」と回答した方が65.0%となっています。「男性も積極的に取得するほうがよい」との回答は30.2%、「男性は取得しないほうがよい」は、1.2%となっています。



項目	度数	構成比
男性も積極的に取得するほうがよい	101	30.2%
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	217	65.0%
男性は取得しないほうがよい	4	1.2%
その他	5	1.5%
無回答	7	2.1%
回答者数	334	100.0%

問7 (18歳未満のお子さんがいらっしゃる方にお尋ねします。)
子育てにあたり困っていることがあれば、次の中から選んでください。(複数回答可)

「子育てに伴う経済的負担が大きい」と回答した方が50.0%と最も多く、次に多い回答が「育児と家事の負担が大きい」「父親のかかわり方や役割が不足している(母親の負担が大きい)」で、それぞれ26.7%となっています。

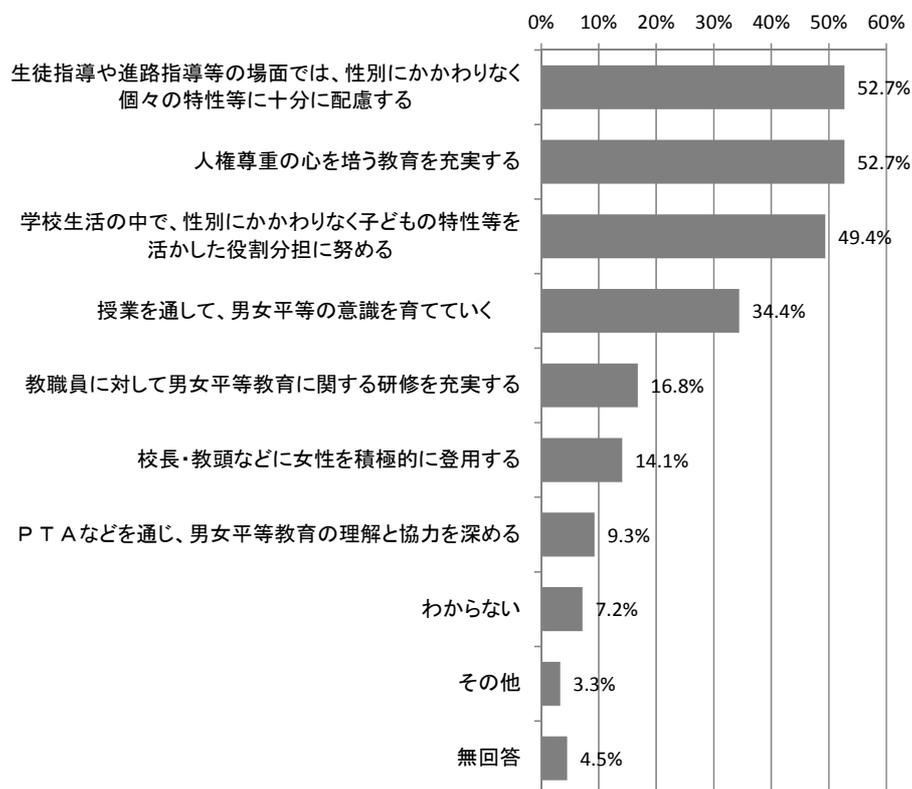


項目	度数	構成比
子育てに伴う経済的負担が大きい	30	50.0%
育児と家事の負担が大きい	16	26.7%
父親のかかわり方や役割が不足している (母親の負担が大きい)	16	26.7%
延長保育や一時保育などの多様な保育 サービスが少ない	14	23.3%
仕事の負担が大きく、育児との両立が難しい	13	21.7%
気がめいる等精神的なストレスが大きい	12	20.0%
利用しやすい保育園・幼稚園が不足している	10	16.7%
保育園や幼稚園を選ぶための情報が 不足している	8	13.3%
育児にあたっての育児休暇や年次休暇の 取得が困難である	7	11.7%
子育てに関する情報や相談相手が少ない	5	8.3%
医療機関の情報が入手にくい	5	8.3%
出産や育児を理由とした職場での不利な 扱いを受けている	3	5.0%
母親のかかわり方や役割が不足している (父親の負担が大きい)	2	3.3%
その他	6	10.0%
回答者数	60	
非該当者数	274	
全体数	334	

※無回答分を非該当者とし集計に含めず。

問8 学校教育において、どのようなことが重要だと思いますか。3つまで選んでください。

「生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の特性等に十分に配慮する」「人権尊重の心を培う教育を充実する」と回答した方がともに52.7%と最も多く、次に多い回答が「学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を活かした役割分担に努める」の49.4%となっています。

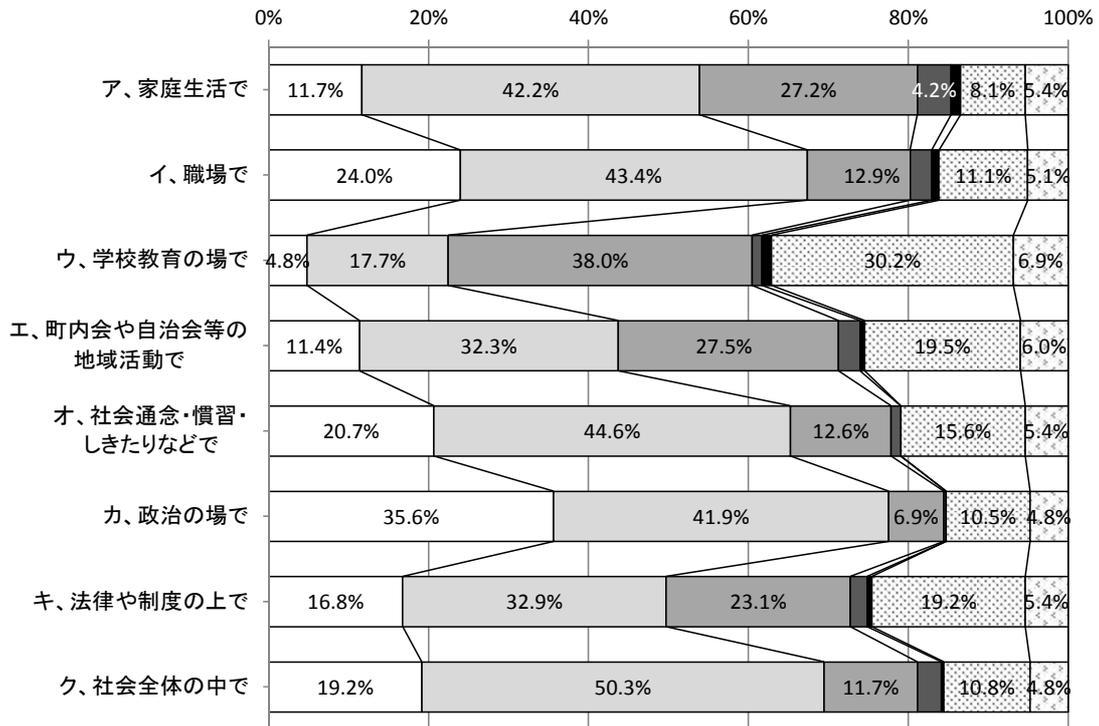


項目	度数	構成比
生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の特性等に十分に配慮する	176	52.7%
人権尊重の心を培う教育を充実する	176	52.7%
学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を活かした役割分担に努める	165	49.4%
授業を通して、男女平等の意識を育てていく	115	34.4%
教職員に対して男女平等教育に関する研修を充実する	56	16.8%
校長・教頭などに女性を積極的に登用する	47	14.1%
PTAなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深める	31	9.3%
わからない	24	7.2%
その他	11	3.3%
無回答	15	4.5%
回答者数	334	

2 労働や社会参画に関すること

問9 現在、次のような分野で男女は平等になっていると思いますか。次のアからクについて番号（1～6）を1つずつ選んでください。

ほとんどの項目において「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が一番多い回答となっています。ただし「ウ、学校教育の場で」の項目においては、「平等になっている」の回答が一番多く、38.0%となっています。



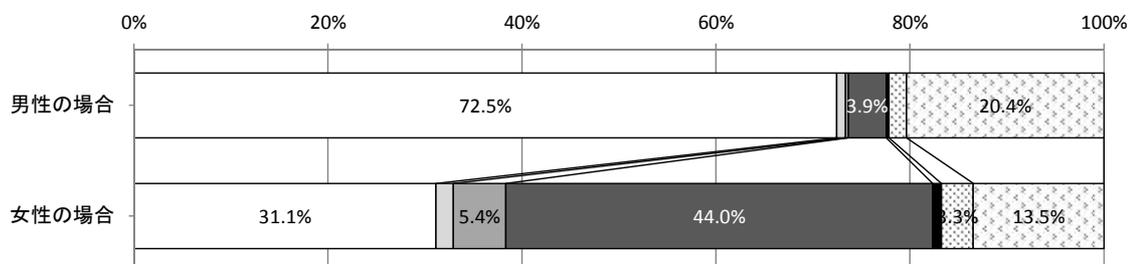
- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 男性の方が優遇されている | <input type="checkbox"/> どちらかといえば男性のほうが優遇されている |
| <input type="checkbox"/> 平等になっている | <input type="checkbox"/> どちらかといえば女性のほうが優遇されている |
| <input type="checkbox"/> 女性の方が優遇されている | <input type="checkbox"/> わからない |
| <input type="checkbox"/> 無回答 | |

項目	優遇されている 男性の方が	どちらかといえば 男性のほうが 優遇されている	平等になっている	どちらかといえば 女性のほうが 優遇されている	優遇されている 女性の方が	わからない	無回答	回答者数
ア、家庭生活で	39	141	91	14	4	27	18	334
イ、職場で	80	145	43	9	3	37	17	334
ウ、学校教育の場で	16	59	127	4	4	101	23	334
エ、町内会や自治会等の 地域活動で	38	108	92	9	2	65	20	334
オ、社会通念・慣習・ しきたりなどで	69	149	42	4	0	52	18	334
カ、政治の場で	119	140	23	1	0	35	16	334
キ、法律や制度の上で	56	110	77	7	2	64	18	334
ク、社会全体の中で	64	168	39	10	1	36	16	334

項目	優遇されている 男性の方が	どちらかといえば 男性のほうが 優遇されている	平等になっている	どちらかといえば 女性のほうが 優遇されている	優遇されている 女性の方が	わからない	無回答	回答者数
ア、家庭生活で	39	141	91	14	4	27	18	334
イ、職場で	80	145	43	9	3	37	17	334
ウ、学校教育の場で	16	59	127	4	4	101	23	334
エ、町内会や自治会等の 地域活動で	38	108	92	9	2	65	20	334
オ、社会通念・慣習・ しきたりなどで	69	149	42	4	0	52	18	334
カ、政治の場で	119	140	23	1	0	35	16	334
キ、法律や制度の上で	56	110	77	7	2	64	18	334
ク、社会全体の中で	64	168	39	10	1	36	16	334

**問10 あなたは男女が職業を持つことについて、どう思いますか。
男女別に1つずつ選んで（ ）内に番号を記入してください。**

男性の場合、「結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい」の回答が最も多く、72.5%となっています。一方、女性の場合、「子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい」の意見が最も多く、44.0%の割合となっています。

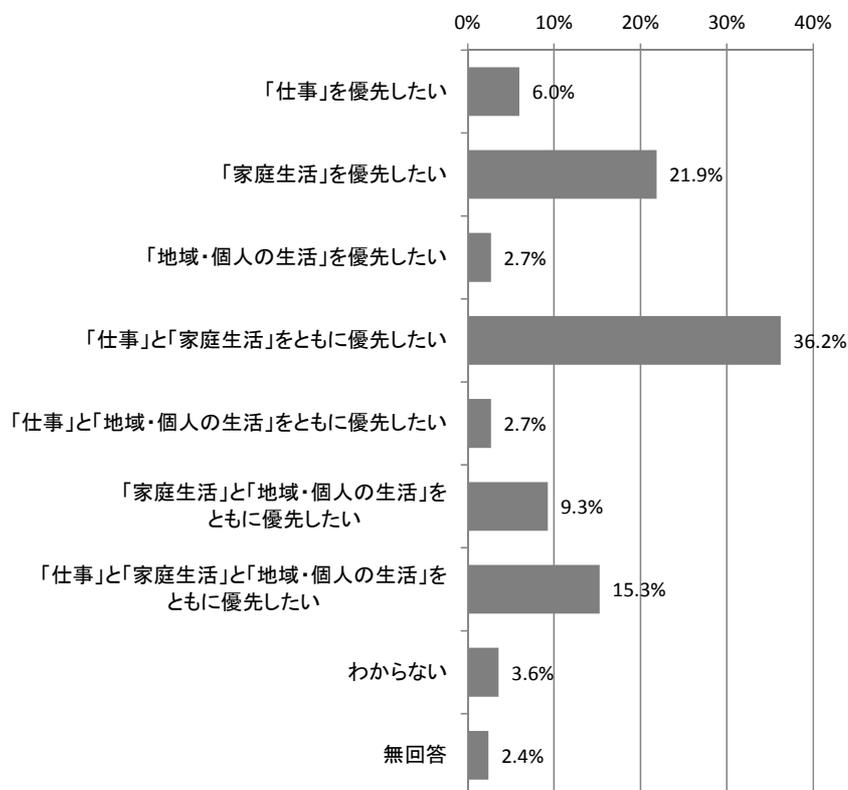


結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい
 結婚するまでは職業を持つ方がよい
 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
 子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい
 職業を持たない方がよい
 その他
 無回答

項目	男性の場合	女性の場合	男性の場合	女性の場合
結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい	242	104	72.5%	31.1%
結婚するまでは職業を持つ方がよい	3	6	0.9%	1.8%
子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	1	18	0.3%	5.4%
子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい	13	147	3.9%	44.0%
職業を持たない方がよい	1	3	0.3%	0.9%
その他	6	11	1.8%	3.3%
無回答	68	45	20.4%	13.5%
合計	334	334	100.0%	100.0%

問 1 1 あなたは、生活の中で、何を優先したいと考えますか。1つ選んでください。

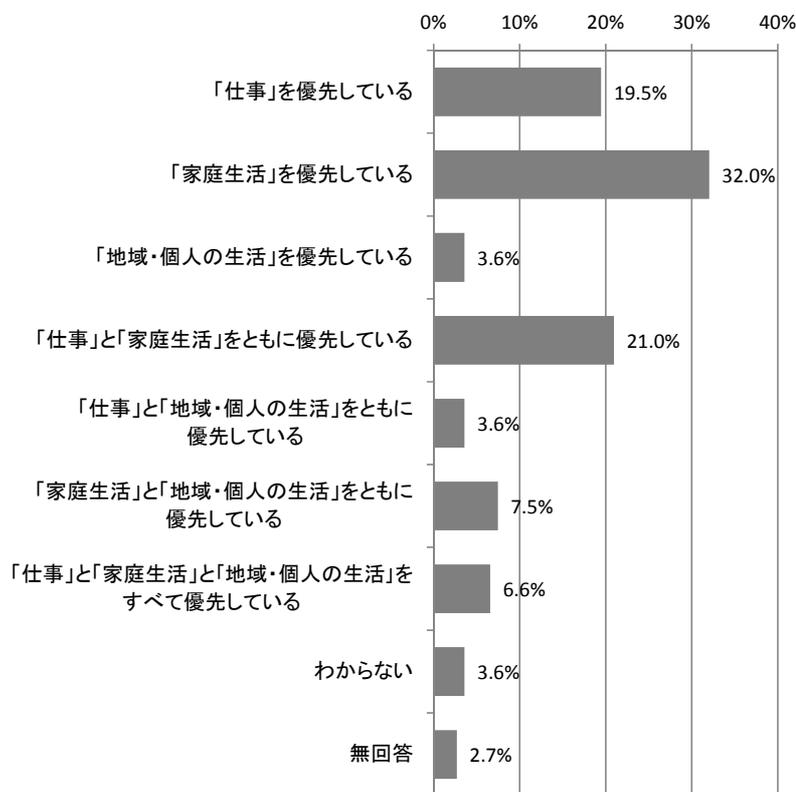
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」と回答した方が36.2%と最も多く、次に多い回答が「家庭生活」を優先したい」の回答が21.9%、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい」の15.3%となっています。



項目	度数	構成比
「仕事」を優先したい	20	6.0%
「家庭生活」を優先したい	73	21.9%
「地域・個人の生活」を優先したい	9	2.7%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	121	36.2%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	9	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	31	9.3%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	51	15.3%
わからない	12	3.6%
無回答	8	2.4%
回答者数	334	100.0%

問12 あなたは、生活の中で、何を優先していますか。現状に最も近いものを1つ選んでください。

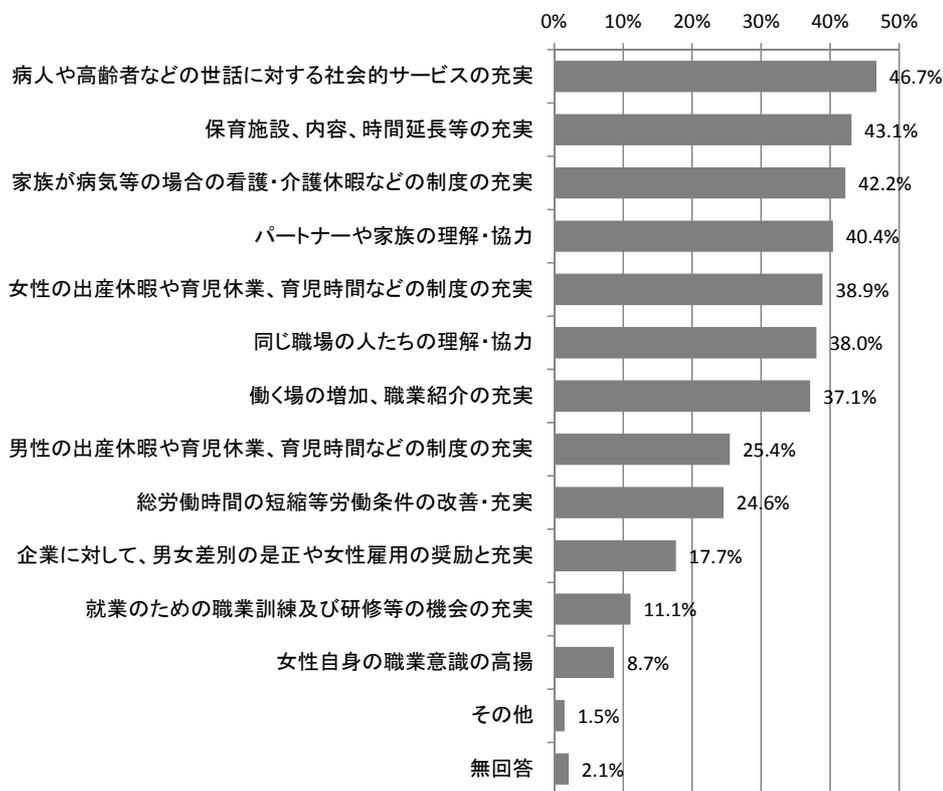
「家庭生活」を優先している」と回答した方が32.0%と最も多く、次に多い回答が「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」の回答が21.0%、「仕事」を優先している」の19.5%となっています。



項目	度数	構成比
「仕事」を優先している	65	19.5%
「家庭生活」を優先している	107	32.0%
「地域・個人の生活」を優先している	12	3.6%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	70	21.0%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	12	3.6%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	25	7.5%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて優先している	22	6.6%
わからない	12	3.6%
無回答	9	2.7%
回答者数	334	100.0%

問13 男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なことは何だと思いますか。次の中から選んでください。（複数回答可）

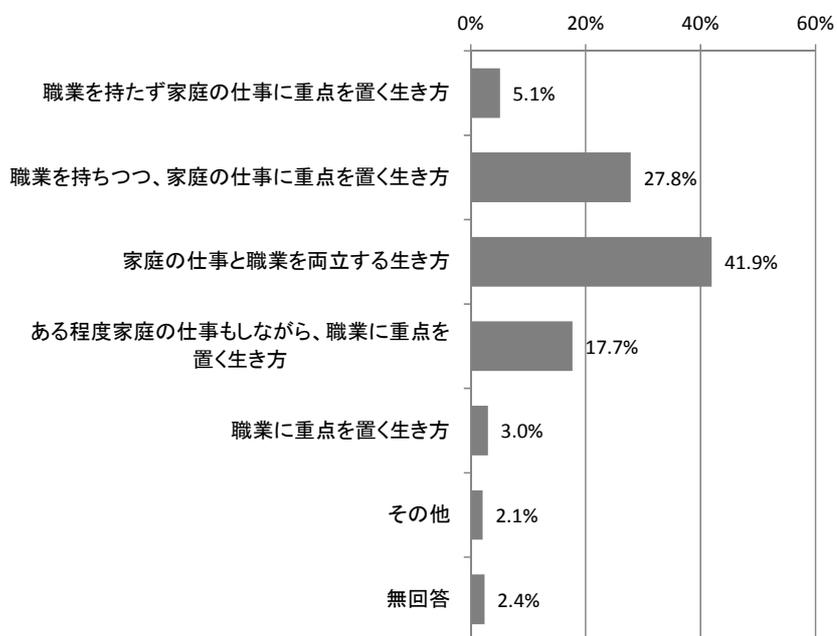
「病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実」と回答した方が46.7%と最も多く、次に多い回答が「保育施設、内容、時間延長等の充実」の43.1%、「家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実」の42.2%となっています。



項目	度数	構成比
病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実	156	46.7%
保育施設、内容、時間延長等の充実	144	43.1%
家族が病気等の場合の看護・介護休暇などの制度の充実	141	42.2%
パートナーや家族の理解・協力	135	40.4%
女性の出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実	130	38.9%
同じ職場の人たちの理解・協力	127	38.0%
働く場の増加、職業紹介の充実	124	37.1%
男性の出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実	85	25.4%
総労働時間の短縮等労働条件の改善・充実	82	24.6%
企業に対して、男女差別の是正や女性雇用の奨励と充実	59	17.7%
就業のための職業訓練及び研修等の機会の充実	37	11.1%
女性自身の職業意識の高揚	29	8.7%
その他	5	1.5%
無回答	7	2.1%
回答者数	334	

問 1 4 私たちは性別にかかわらず自分らしい生き方を選択する権利を持っています。
 どのような生き方が自分に合った生き方だと思いますか。1つ選んでください。

「家庭の仕事と職業を両立する生き方」と回答した方が41.9%と最も多く、次に多い回答が「職業を持ちつつ、家庭の仕事に重点を置く生き方」の27.8%、「ある程度家庭の仕事もしながら、職業に重点を置く生き方」の17.7%となっています。

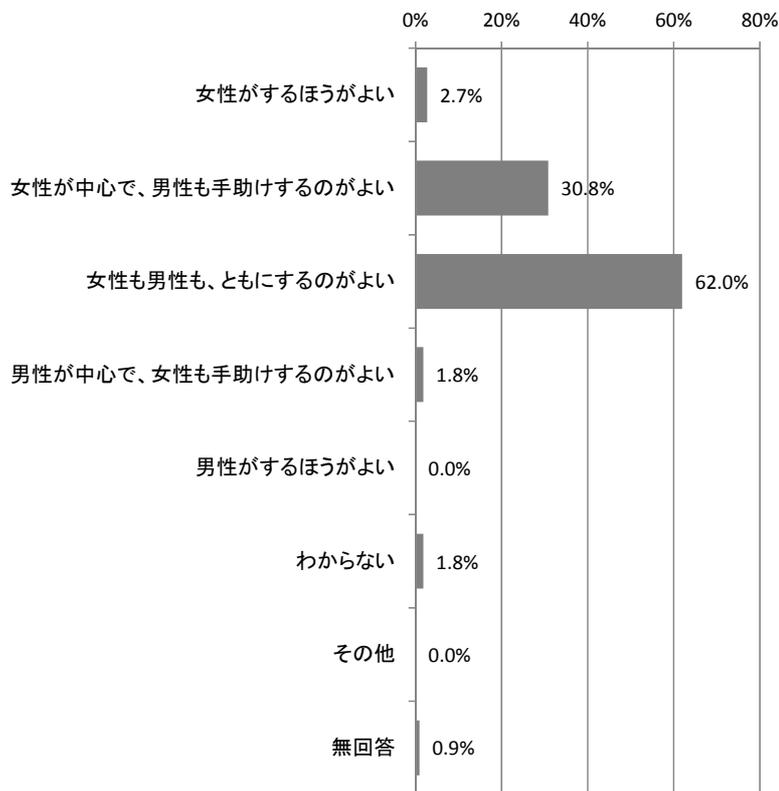


項目	度数	構成比
職業を持たず家庭の仕事に重点を置く生き方	17	5.1%
職業を持ちつつ、家庭の仕事に重点を置く生き方	93	27.8%
家庭の仕事と職業を両立する生き方	140	41.9%
ある程度家庭の仕事もしながら、職業に重点を置く生き方	59	17.7%
職業に重点を置く生き方	10	3.0%
その他	7	2.1%
無回答	8	2.4%
回答者数	334	100.0%

3 老後の生活に関することについて

問15 高齢者の介護を行うのは、男性と女性のどちらが望ましいと思いますか。1つ選んでください。

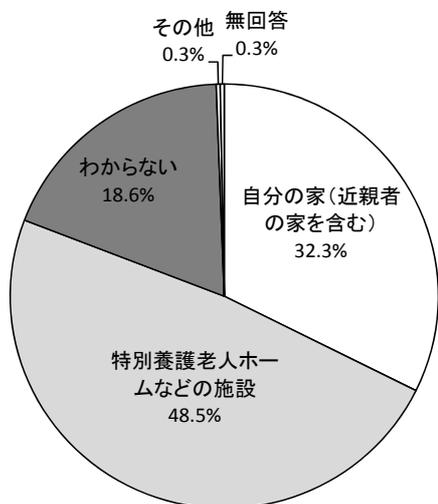
「女性も男性も、ともにするのがよい」と回答した方が62.0%と最も多く、次に多い回答が「女性が中心で、男性も手助けするのがよい」の回答が30.8%となっています。



項目	度数	構成比
女性がするほうがよい	9	2.7%
女性が中心で、男性も手助けするのがよい	103	30.8%
女性も男性も、ともにするのがよい	207	62.0%
男性が中心で、女性も手助けするのがよい	6	1.8%
男性がするほうがよい	0	0.0%
わからない	6	1.8%
その他	0	0.0%
無回答	3	0.9%
回答者数	334	100.0%

問16 自分の身のまわりのことができなくなったときどこで介護をしてほしいですか。1つ選んでください。

「特別養護老人ホームなどの施設」と回答した方が48.5%と最も多く、「自分の家(近親者の家を含む)」と回答した方は32.3%となっています。

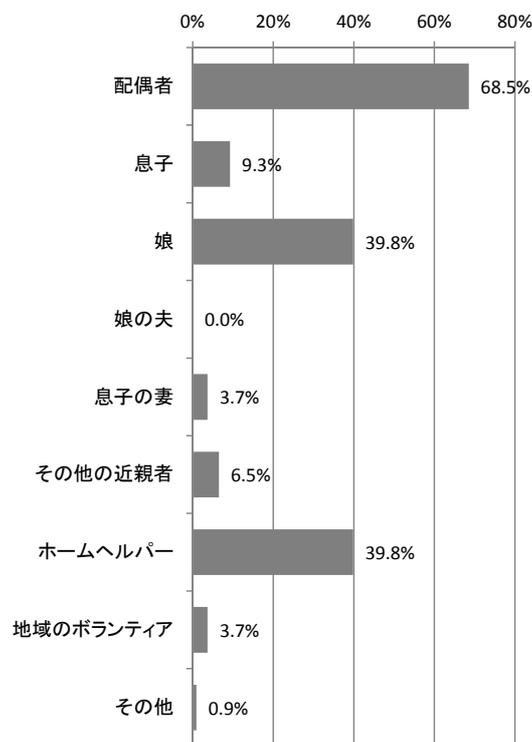


項目	度数	構成比
自分の家(近親者の家を含む)	108	32.3%
特別養護老人ホームなどの施設	162	48.5%
わからない	62	18.6%
その他	1	0.3%
無回答	1	0.3%
回答者数	334	100.0%

【「1. 自分の家」を選ばれた方にお尋ねします。】

その場合、だれに介護をしてほしいですか。2つまで選んでください。

「配偶者」と回答した方が68.5%と最も多く、次に多い回答が「ホームヘルパー」「娘」の39.8%となっています。

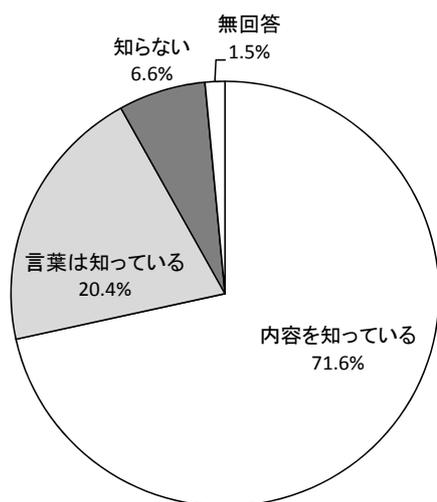


項目	度数	構成比
配偶者	74	68.5%
息子	10	9.3%
娘	43	39.8%
娘の夫	0	0.0%
息子の妻	4	3.7%
その他の近親者	7	6.5%
ホームヘルパー	43	39.8%
地域のボランティア	4	3.7%
その他	1	0.9%
無回答	0	0.0%
回答者数	108	
非該当	226	
全体数	334	

4 ドメスティック・バイオレンスについて

問17 ドメスティック・バイオレンス（※）（以下「DV」）という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

「内容を知っている」と回答した方が71.6%、「言葉は知っている」との回答は20.4%となっています。

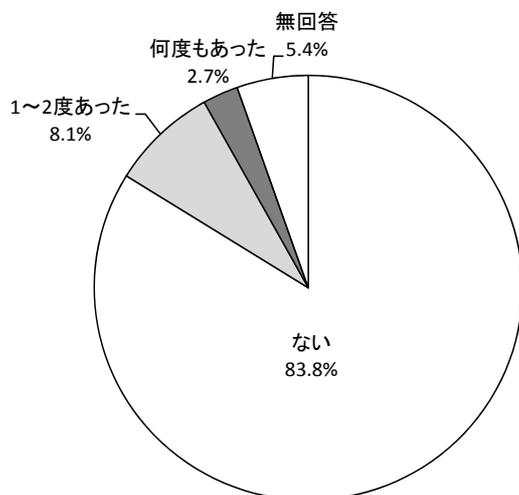


項目	度数	構成比
内容を知っている	239	71.6%
言葉は知っている	68	20.4%
知らない	22	6.6%
無回答	5	1.5%
回答者数	334	100.0%

問18 配偶者や恋人など近い間柄にある人から暴力を受けたことがありますか。次の、ア～エについて番号（1～3）を1つずつ選んでください。（「1～2度あった」または「何度もあった」を選ばれた方）どのような暴力か選んでください（複数回答可）

ア 身体的暴力

「ない」と回答した方が83.8%となっています。「1～2度あった」との回答は8.1%、「何度もあった」は2.7%となっています。



項目	度数	構成比
ない	280	83.8%
1～2度あった	27	8.1%
何度もあった	9	2.7%
無回答	18	5.4%
回答者数	334	100.0%

【それはどのような暴力ですか】（複数回答可）

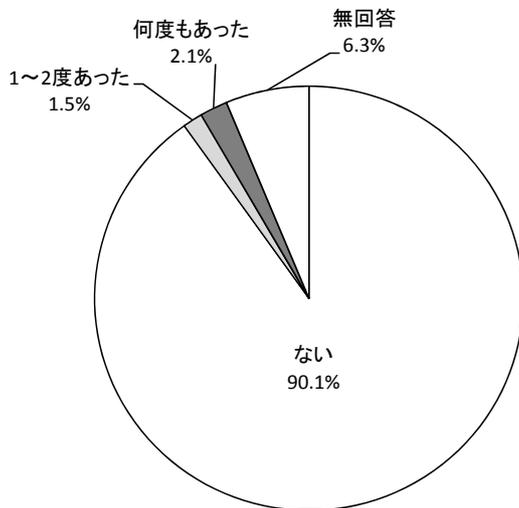
「② 蹴る・殴るなどされた」と回答した方が最も多く、続いて「① 押す、つかむ、つねる、こづくなどされた」「平手で打たれた」が多い回答となっています。

項目	度数	構成比
① 押す、つかむ、つねる、こづくなどされた	14	36.8%
② 蹴る・殴るなどされた	19	50.0%
③ 平手で打たれた	13	34.2%
④ 身体を傷つける可能性のあるもので、おどされた	3	7.9%
⑤ 立ち上がれなくなるまで、殴る・蹴るなどされた	3	7.9%
⑥ 首をしめる、刃物をつきつけるなどで、おどされた	1	2.6%
⑦ その他	0	0.0%
無回答	1	2.6%
回答者数	38	
非該当者数	296	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

イ 経済的暴力

「ない」の回答が最も多く、が90.1%となっています。「1～2度あった」との回答は1.5%、「何度もあった」は2.1%となっています。



項目	度数	構成比
ない	301	90.1%
1～2度あった	5	1.5%
何度もあった	7	2.1%
無回答	21	6.3%
回答者数	334	100.0%

【それはどのような暴力ですか】（複数回答可）

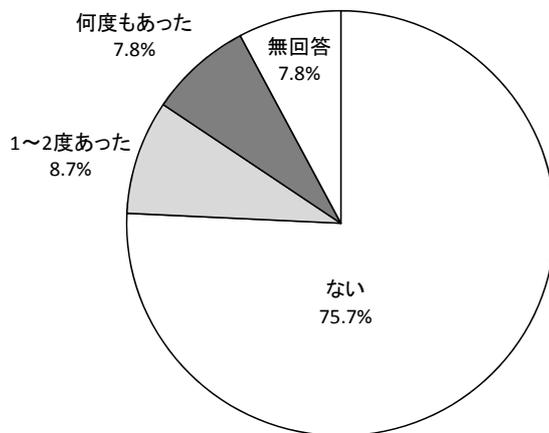
「① 給料を渡されなかった」と回答した方が最も多く、次に多かった回答が「あなたの給料をだまって持っていかれた」となっています。

項目	度数	構成比
① 給料を渡されなかった	5	38.5%
② あなたの給料をだまって持っていかれた	4	30.8%
③ その他	4	30.8%
無回答	0	0.0%
回答者数	13	
非該当者数	321	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

ウ 精神的暴力

「ない」と回答した方が75.7%となっています。「1～2度あった」との回答は8.7%、「何度もあった」は7.8%となっています。



項目	度数	構成比
ない	253	75.7%
1～2度あった	29	8.7%
何度もあった	26	7.8%
無回答	26	7.8%
回答者数	334	100.0%

【それはどのような暴力ですか】（複数回答可）

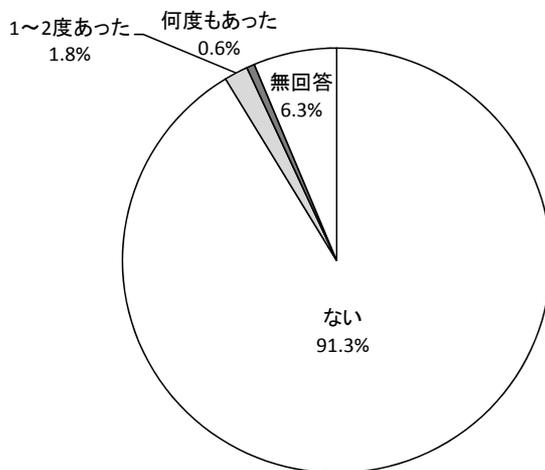
「① 何を言っても無視された」と回答した方が最も多く、次に多い回答が「④ 「だれのおかげで食べられるんだ」などと言われた」「② 家族の前で侮辱したり、馬鹿にされた」となっています。

項目	度数	構成比
① 何を言っても無視された	23	39.7%
② 家族の前で侮辱したり、馬鹿にされた	17	29.3%
③ 他人の前で侮辱したり、馬鹿にされた	14	24.1%
④ 「だれのおかげで食べられるんだ」 などと言われた	21	36.2%
⑤ 交友関係や電話・メールなどを細かく 監視された	5	8.6%
⑥ その他	2	3.4%
無回答	4	6.9%
回答者数	58	
非該当者数	276	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

エ 性的暴力

「ない」と回答した方が91.3%となっています。「1～2度あった」との回答は1.8%、「何度もあった」は0.6%となっています。



項目	度数	構成比
ない	305	91.3%
1～2度あった	6	1.8%
何度もあった	2	0.6%
無回答	21	6.3%
回答者数	334	100.0%

【それはどのような暴力ですか】（複数回答可）

「① 避妊に協力しない」と回答した方が最も多く、次に多い回答が「② おどしや暴力で、意に反する性的行為を強要された」となっています。

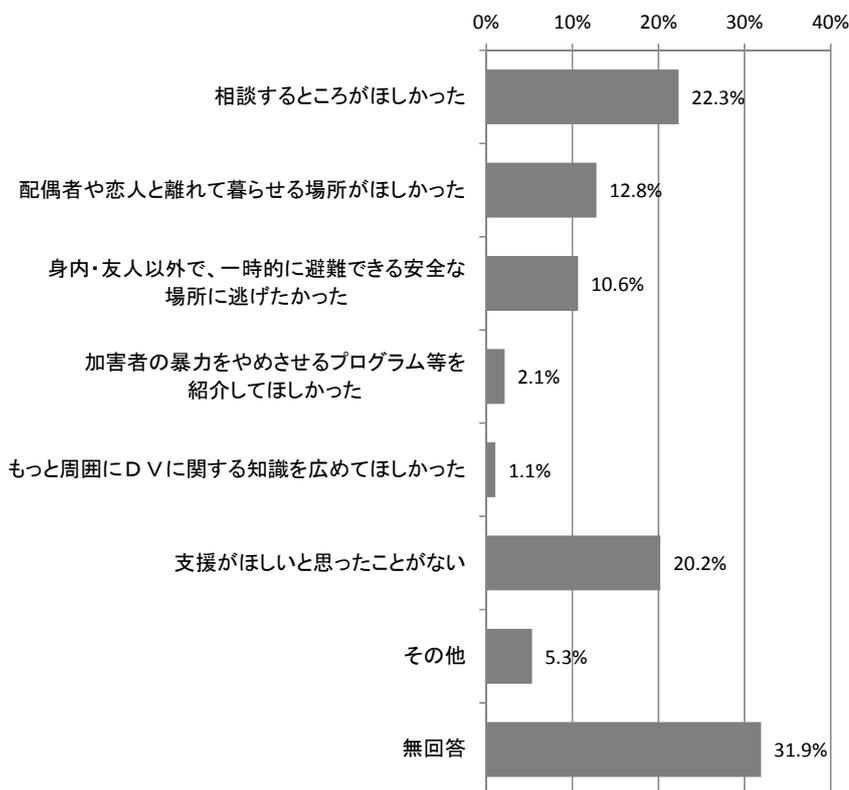
項目	度数	構成比
① 避妊に協力しない	5	50.0%
② おどしや暴力で、意に反する性的行為を強要された	4	40.0%
③ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	1	10.0%
④ その他	1	10.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	10	
非該当者数	324	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

問19（「問18」のいずれかの項目で「1～2度あった」または「何度もあった」を選んだ方）

① 暴力を受けた時やその後、どのような支援などがほしいと思われましたか。次の中から選んでください。（複数回答可）

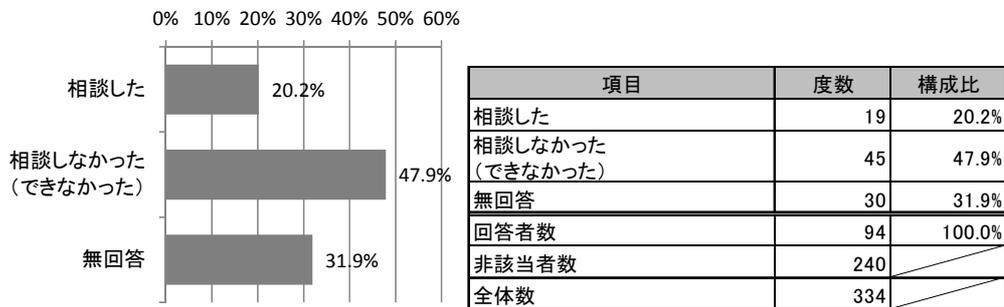
「相談するところがほしかった」と回答した方が22.3%となっています。一方、「支援がほしいと思っただけではない」との回答も20.2%となっています。



項目	度数	構成比
相談するところがほしかった	21	22.3%
配偶者や恋人と離れて暮らせる場所がほしかった	12	12.8%
身内・友人以外で、一時的に避難できる安全な場所に逃げたかった	10	10.6%
加害者の暴力をやめさせるプログラム等を紹介してほしい	2	2.1%
もっと周囲にDVに関する知識を広めてほしい	1	1.1%
支援がほしいと思っただけではない	19	20.2%
その他	5	5.3%
無回答	30	31.9%
回答者数	94	
非該当者数	240	
全体数	334	

② 暴力を受けた時、どこ（誰）かに相談しましたか。

「相談しなかった（できなかった）」と回答した方が47.9%となっています。一方、「相談した」の回答は20.2%となっています。



③ （「②」で「相談した」を選んだ方）誰に相談しましたか。次の中から選んでください。
（複数回答可）

「親族」と回答した方が最も多く、次に多い回答が「友人・知人」となっています。

項目	度数	構成比
親族	14	73.7%
友人・知人	11	57.9%
同じような経験をした人	2	10.5%
医師・カウンセラー	3	15.8%
行政の相談窓口	1	5.3%
家庭裁判所	1	5.3%
女性グループ	0	0.0%
警察	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	19	
非該当者数	315	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

④（「②」で「相談しなかった」を選んだ方）相談しなかった（できなかった）のはどのような理由からですか。次の中から選んでください。（複数回答可）

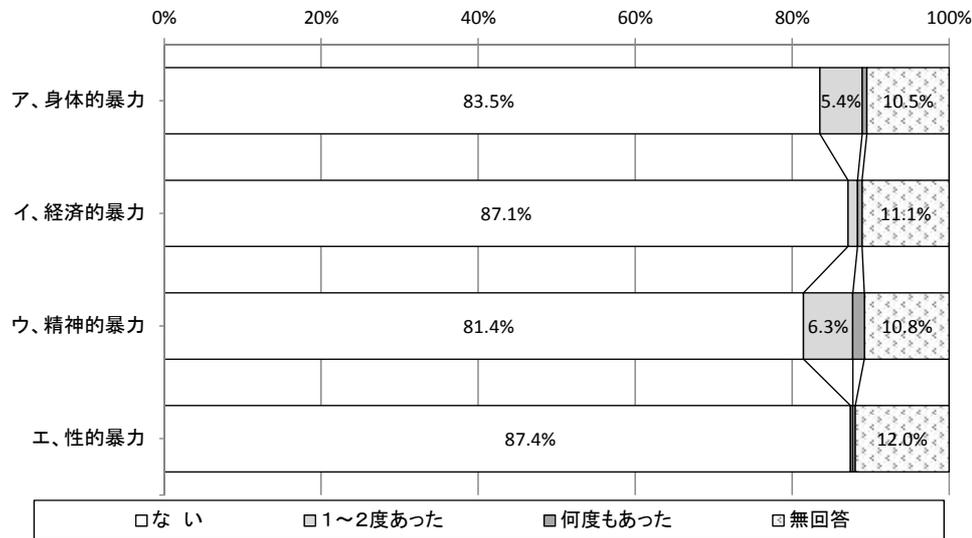
「相談するほどではない」と回答した方が最も多く、次に多い回答が「自分が我慢すればやっていけると思った」となっています。

項目	度数	構成比
相談するほどではない	21	46.7%
自分が我慢すればやっていけると思った	16	35.6%
相談しても無駄だと思った	9	20.0%
自分が悪いと思った	6	13.3%
世間に知られたくない	3	6.7%
子どもに危害が及ぶ	2	4.4%
相談したことがわかると仕返しが怖かった	1	2.2%
その他	3	6.7%
無回答	3	6.7%
回答者数	45	
非該当者数	289	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

問20 配偶者や恋人など近い間柄の人に暴力をふるったことがありますか。
次のア～エについて番号（1～4）を1つずつ選んでください。

各項目とも「ない」の割合が回答者の8割以上と大半を占めています。「1～2度あった」については、「ア、身体的暴力」「ウ、精神的暴力」の項目で比較的高い割合となっています。



項目	回答者数				計
	ない	1～2度あった	何度もあった	無回答	
ア、身体的暴力	279	18	2	35	334
イ、経済的暴力	291	4	2	37	334
ウ、精神的暴力	272	21	5	36	334
エ、性的暴力	292	1	1	40	334

問21 「問20」のいずれかの項目で「1～2度あった」または「何度もあった」を選んだ方
暴力をふるった後に相談したり、支援してほしいと思ったことはありますか。
次の中から選んでください。（複数回答可）

「相談したり、支援してほしいと思ったことはない」が最も多い回答となっています。

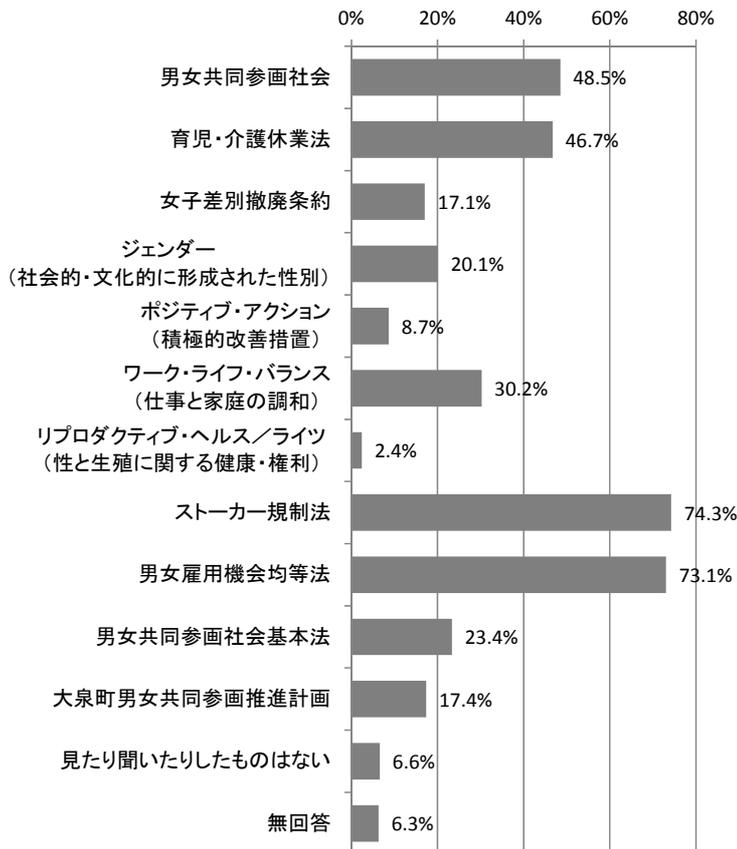
項目	度数	構成比
暴力をやめるための加害者プログラム等を紹介してほしかった	2	5.3%
カウンセラー等、専門家に相談したかった	4	10.5%
弁護士等、法律の専門家に相談したかった	0	0.0%
相談したり、支援してほしいと思ったことはない	23	60.5%
その他	2	5.3%
無回答	8	21.1%
回答者数	38	100.0%
非該当者数	296	
全体数	334	

※回答者数が少ないため、参考値として掲載。

5 男女共同参画社会づくりについて

問22 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。（複数回答可）

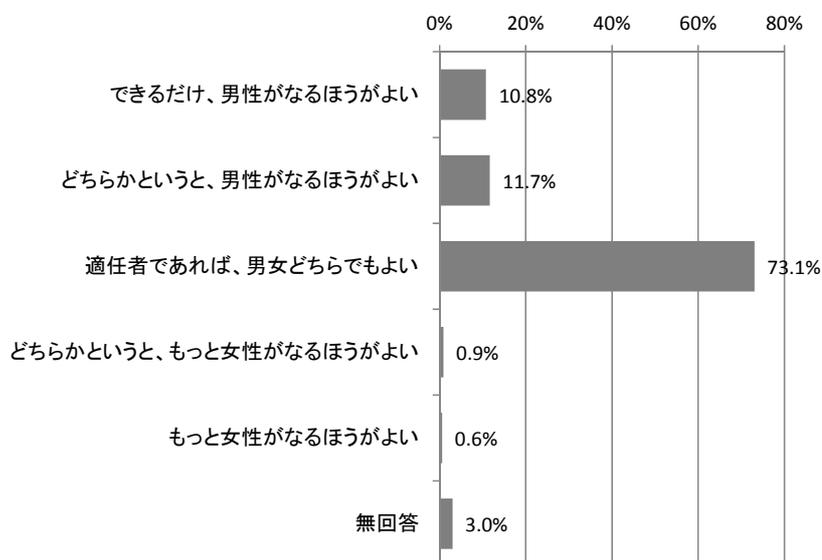
「ストーカー規制法」と回答した方が74.3%と最も多く、次に多い回答が「男女雇用機会均等法」の73.1%、「男女共同参画社会」の48.5%となっています。



項目	度数	構成比
男女共同参画社会	162	48.5%
育児・介護休業法	156	46.7%
女子差別撤廃条約	57	17.1%
ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)	67	20.1%
ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	29	8.7%
ワーク・ライフ・バランス (仕事と家庭の調和)	101	30.2%
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康・権利)	8	2.4%
ストーカー規制法	248	74.3%
男女雇用機会均等法	244	73.1%
男女共同参画社会基本法	78	23.4%
大泉町男女共同参画推進計画	58	17.4%
見たり聞いたりしたものはなし	22	6.6%
無回答	21	6.3%
回答者数	334	

問 2 3 自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

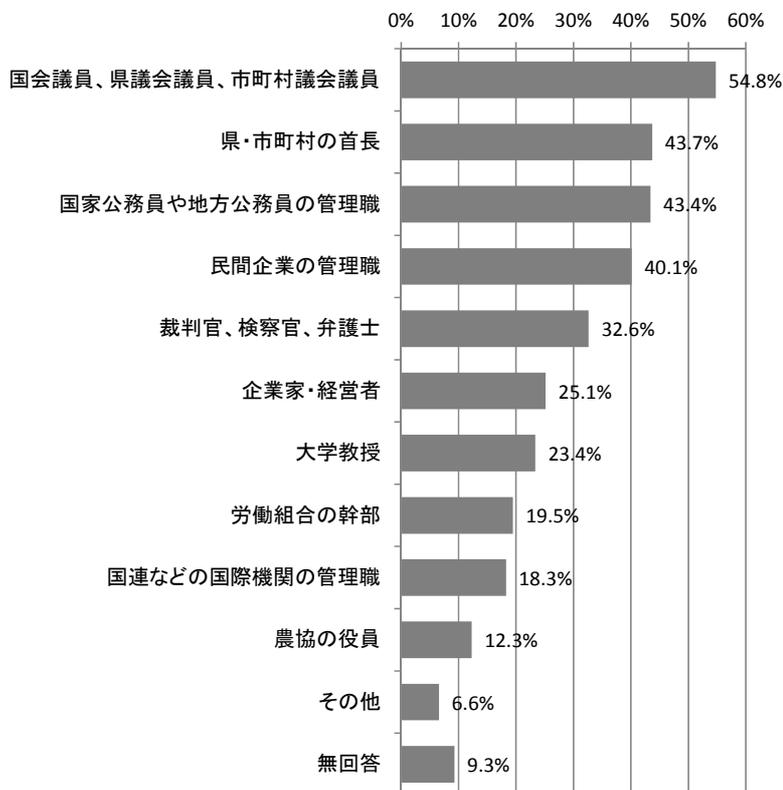
「適任者であれば、男女どちらでもよい」と回答した方が73.1%と最も多く、「どちらかというと、男性になるほうがよい」の回答は11.7%、「できるだけ、男性になるほうがよい」は10.8%となっています。



項目	度数	構成比
できるだけ、男性になるほうがよい	36	10.8%
どちらかというと、男性になるほうがよい	39	11.7%
適任者であれば、男女どちらでもよい	244	73.1%
どちらかというと、もっと女性になるほうがよい	3	0.9%
もっと女性になるほうがよい	2	0.6%
無回答	10	3.0%
回答者数	334	

問24 次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。次の中から選んでください。（複数回答可）

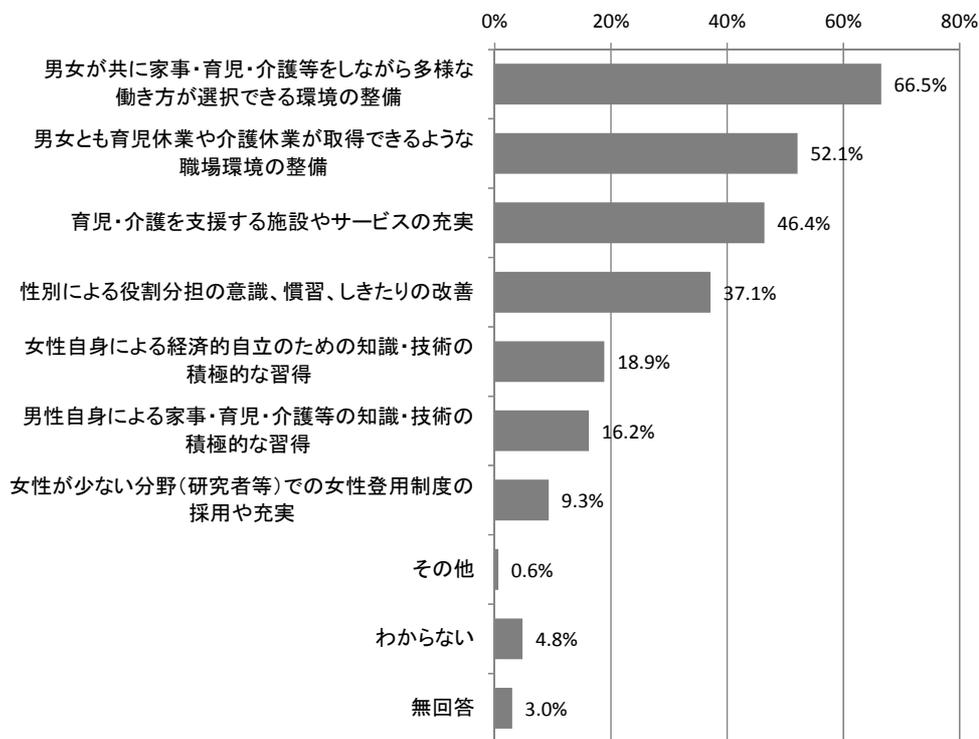
「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」と回答した方が54.8%と最も多く、続いて「県・市町村の首長」の43.7%、「国家公務員や地方公務員の管理職」の43.4%となっています。



項目	度数	構成比
国会議員、県議会議員、市町村議会議員	183	54.8%
県・市町村の首長	146	43.7%
国家公務員や地方公務員の管理職	145	43.4%
民間企業の管理職	134	40.1%
裁判官、検察官、弁護士	109	32.6%
企業家・経営者	84	25.1%
大学教授	78	23.4%
労働組合の幹部	65	19.5%
国連などの国際機関の管理職	61	18.3%
農協の役員	41	12.3%
その他	22	6.6%
無回答	31	9.3%
回答者数	334	

問25 今後、男女共同参画の社会づくりのために、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

「男女が共に家事・育児・介護等をしながら多様な働き方が選択できる環境の整備」と回答した方が66.5%と最も多く、続いて「男女とも育児休業や介護休業が取得できるような職場環境の整備」の52.1%、「育児・介護を支援する施設やサービスの充実」の46.4%となっています。



項目	度数	構成比
男女が共に家事・育児・介護等をしながら多様な働き方が選択できる環境の整備	222	66.5%
男女とも育児休業や介護休業が取得できるような職場環境の整備	174	52.1%
育児・介護を支援する施設やサービスの充実	155	46.4%
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	124	37.1%
女性自身による経済的自立のための知識・技術の積極的な習得	63	18.9%
男性自身による家事・育児・介護等の知識・技術の積極的な習得	54	16.2%
女性が少ない分野(研究者等)での女性登用制度の採用や充実	31	9.3%
その他	2	0.6%
わからない	16	4.8%
無回答	10	3.0%
回答者数	334	

調查票

男女共同参画社会に関するアンケート

一人ひとりが認めあうやさしさあふれるまちづくりをめざして

大 泉 町

日頃より町行政に対しご協力いただき感謝申し上げます。

本町では、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現を目指して、平成15年度に大泉町男女共同参画推進計画、平成22年度には第2次計画を策定し、男女共同参画の推進に向け取り組んでまいりました。この計画については5年ごとに見直しをすることになっており、平成27年度には第3次計画の策定を予定しています。そこで、町が取り組むべき施策の基礎資料とさせていただくため、住民意識調査を実施いたします。

ご多忙中お手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、アンケートにご協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

平成27年 2月

※ 対象者 満20歳以上の男女、1,000人無作為抽出

ご記入にあたってのお願い

- ※1. 回答は、あて名のご本人がお答えください。
ご本人がご記入することが難しい場合は、身近な方がご本人の意見を聞きながらご記入ください。
- ※2. ご記入は、濃い鉛筆か黒または青のボールペン・万年筆でお願いします。
- ※3. 答えは、質問ごとに用意してある答えの中から、あなたの現在の状態やお考えにあてはまる番号を○で囲んでください。
- ※4. 質問をゆっくりお読みの上、あまりむずかしくお考えにならずに、感じたままを率直にお答えください。
- ※5. お答えの中で、「その他」を選ばれた時は、() 内に具体的にご記入ください。
- ※6. ご記入いただいたアンケートは、お手数ですが同封の返信用封筒(切手は必要ありません)に入れ、2月23日(月)までに郵便ポストにご投函ください。
無記名で結構です。
- ※7. このアンケートについてお問い合わせがありましたら、下記にご連絡ください。
〒370-0523 大泉町大字吉田2011番地の1
企画部 国際協働課 (住民活動支援センター内)
電話 0276-55-3700

F1. あなたの性別は

1. 男性 2. 女性 3. その他 ()

F2. あなたの年齢は

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代
4. 50歳代 5. 60歳代 6. 70歳以上

F3. あなたの職業は

1. 正社員・正職員 2. 自営業・自由業・家業手伝い
3. パート・アルバイト・非常勤・派遣社員 4. 専業主婦・主夫
5. 学生 6. 無職
7. その他 ()

F4. あなたは次のうちどれに該当しますか。

1. 既婚（配偶者あり・事実婚を含む） 2. 離婚・死別
3. 未婚
4. その他 ()

F5. 【F4で既婚と回答した人にお尋ねします。】

あなたは共働き（パート、アルバイト等を含む）ですか。

1. 共働きしている 2. 共働きしていない
3. その他 ()

F6. あなたの家族構成は

1. 本人だけ 2. 夫婦 3. 親・子（二世帯）
4. 親・子・孫（三世帯）
5. その他 ()

F7. お子さんは、どのような構成ですか。

1. 男の子だけ 2. 女の子だけ
3. 男の子と女の子 4. いない
5. その他 ()

1 **家庭や教育に関することについて**

問1 結婚に関して、どう思いますか。

次のアからカについて番号（1～6）を1つずつ選んでください。

		そう思う	ややそう思う	ない どちらとも言え ない	あまりそう思わ ない	そう思わない	わからない
ア	結婚する、しないはそれぞれ個人の自由だと思う	1	2	3	4	5	6
イ	結婚しても、自分たちの意志で子どもを産まない夫婦がいてもよいと思う	1	2	3	4	5	6
ウ	事実婚（入籍を伴わない結婚）という結婚の形態があってもよいと思う	1	2	3	4	5	6
エ	同性同士の結婚があってもよいと思う	1	2	3	4	5	6
オ	選択的夫婦別姓制度（※）の導入に賛成である	1	2	3	4	5	6
カ	オの制度が導入された場合、「別姓」を選択したい （あなたが、結婚している、いないにかかわらず、お答えください。）	1	2	3	4	5	6

※現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が希望する場合には、同じ名字（姓）ではなく、それぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗ることができる制度。

問2 「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という考え方についてどう思いますか。

次の中から1つ選んでください。

1. 賛成
2. どちらかと言えば、賛成
3. どちらかと言えば、反対
4. 反対
5. わからない

問5 あなたは、男性の育児休業の取得についてどう思いますか。
次の中から1つ選んでください。

1. 男性も積極的に取得するほうがよい
2. 男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
3. 男性は取得しないほうがよい
4. その他 ()

問6 あなたは、男性の介護休業(※)の取得についてどう思いますか。
次の中から1つ選んでください。

1. 男性も積極的に取得するほうがよい
2. 男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
3. 男性は取得しないほうがよい
4. その他 ()

※要介護状態にある家族等を介護するためにする休業

**※ 次の「問7」は18歳未満のお子さんがいらっしゃる方にお尋ねします。
それ以外の方は「問8」へお進みください。**

問7 子育てにあたり困っていることがあれば、次の中から選んでください。
(複数回答可)

1. 利用しやすい保育園・幼稚園が不足している
2. 延長保育や一時保育などの多様な保育サービスが少ない
3. 保育園や幼稚園を選ぶための情報が不足している
4. 育児と家事の負担が大きい
5. 仕事の負担が大きく、育児との両立が難しい
6. 育児にあたっての育児休暇(※)や年次休暇の取得が困難である
7. 出産や育児を理由とした職場での不利な扱いを受けている
8. 父親のかかわり方や役割が不足している(母親の負担が大きい)
9. 母親のかかわり方や役割が不足している(父親の負担が大きい)
10. 子育てに関する情報や相談相手が少ない
11. 気がめいる等精神的なストレスが大きい
12. 医療機関の情報が入手しにくい
13. 子育てに伴う経済的負担が大きい
14. その他 ()

※育児休暇…育児のために休暇を取ること(短期の休暇)

問8 学校教育において、どのようなことが重要だと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

1. 学校生活の中で、性別にかかわらず子どもの特性等を活かした役割分担に努める
2. 生徒指導や進路指導等の場面では、性別にかかわらず個々の特性等に十分に配慮する
3. 授業を通して、男女平等の意識を育てていく
4. 教職員に対して男女平等教育に関する研修を充実する
5. 校長・教頭などに女性を積極的に登用する
6. 人権尊重の心を培う教育を充実する
7. PTAなどを通じ、男女平等教育の理解と協力を深める
8. わからない
9. その他 ()

2 労働や社会参画に関すること

問9 現在、次のような分野で男女は平等になっていると思いますか。
次のアからクについて番号（1～6）を1つずつ選んでください。

		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性のほうが優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性のほうが優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
ア	家庭生活で	1	2	3	4	5	6
イ	職場で	1	2	3	4	5	6
ウ	学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
エ	町内会や自治会等の地域活動で	1	2	3	4	5	6
オ	社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
カ	政治の場で	1	2	3	4	5	6
キ	法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
ク	社会全体の中で	1	2	3	4	5	6

問10 あなたは男女が職業を持つことについて、どう思いますか。
次の中から男女別に1つずつ選んで（ ）内に番号を記入してください。

男性の場合（ ）

女性の場合（ ）

1. 結婚や出産、育児にかかわらず職業を持ち続けた方がよい
2. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、手が離れたら再び持つ方がよい
5. 職業を持たない方がよい
6. その他（ ）

問11 あなたは、生活の中で、何を優先したいと考えますか。
次の中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先したい
2. 「家庭生活」を優先したい
3. 「地域・個人の生活」を優先したい
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
8. わからない

問12 あなたは、生活の中で、何を優先していますか。現状に最も近いものを次の中から1つ選んでください。

1. 「仕事」を優先している
2. 「家庭生活」を優先している
3. 「地域・個人の生活」を優先している
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
5. 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
6. 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて優先している
8. わからない

問13 男女がともに仕事も家庭も担っていくために必要なことは何だと思いますか。

次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 働く場の増加、職業紹介の充実
2. 就業のための職業訓練及び研修等の機会の充実
3. 保育施設、内容、時間延長等の充実
4. 女性の出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実
5. 男性の出産休暇や育児休業、育児時間などの制度の充実
6. 病人や高齢者などの世話に対する社会的サービスの充実
7. 家族が病気等の場合の看護・介護休暇(※)などの制度の充実
8. 企業に対して、男女差別の是正や女性雇用の奨励と充実
9. パートナーや家族の理解・協力
10. 女性自身の職業意識の高揚
11. 同じ職場の人たちの理解・協力
12. 総労働時間の短縮等労働条件の改善・充実
13. その他 ()

※介護休暇…家族の通院などのために取る休暇

問14 私たちは性別にかかわらず自分らしい生き方を選択する権利を持っています。どのような生き方が自分に合った生き方だと思いますか。

次の中から1つ選んでください。

1. 職業を持たず家庭の仕事に重点を置く生き方
2. 職業を持ちつつ、家庭の仕事に重点を置く生き方
3. 家庭の仕事と職業を両立する生き方
4. ある程度家庭の仕事もしながら、職業に重点を置く生き方
5. 職業に重点を置く生き方
6. その他 ()

3 老後の生活に関することについて

問15 高齢者の介護を行うのは、男性と女性のどちらが望ましいと思いますか。

次の中から1つ選んでください。

1. 女性がするほうがよい
2. 女性が中心で、男性も手助けするのがよい
3. 女性も男性も、ともにするのがよい
4. 男性が中心で、女性も手助けするのがよい
5. 男性がするほうがよい
6. わからない
7. その他 ()

問16 自分の身のまわりのことができなくなったときどこで介護をしてほしいですか。

次の中から1つ選んでください。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 自分の家（近親者の家を含む） | 2. 特別養護老人ホームなどの施設 |
| 3. わからない | 4. その他 () |

【「1. 自分の家」を選ばれた方にお尋ねします。】

その場合、だれに介護をしてほしいですか。

次の中から2つまで選んでください。

- | | | |
|------------|--------------|------------|
| 1. 配偶者 | 2. 息子 | 3. 娘 |
| 4. 娘の夫 | 5. 息子の妻 | 6. その他の近親者 |
| 7. ホームヘルパー | 8. 地域のボランティア | |
| 9. その他 () | | |

エ 性的暴力		
1 ない	2 1~2度あった	3 何度もあった
<p>【それはどのような暴力ですか】(複数回答可)</p> <p>① 避妊に協力しない</p> <p>② おどしや暴力で、意に反する性的行為を強要された</p> <p>③ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた</p> <p>④ その他 ()</p>		

問19 「問18」のいずれかの項目で「1~2度あった」または「何度もあった」を選んだ方にお尋ねします。

① 暴力を受けた時やその後、どのような支援などがほしいと思いましたが、

次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 配偶者や恋人と離れて暮らせる場所がほしかった
2. 身内・友人以外で、一時的に避難できる安全な場所に逃げたかった
3. 相談するところがほしかった
4. 加害者の暴力をやめさせるプログラム等を紹介してほしい
5. もっと周囲にDVに関する知識を広めてほしい
6. 支援がほしいと思ったことがない
7. その他 ()

② 暴力を受けた時、どこ(誰)かに相談しましたか。

次の中から1つ選んでください。

1. 相談した
2. 相談しなかった(できなかった)

③ 「②」で「相談した」を選んだ方にお尋ねします。

誰に相談しましたか。

次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 親族
2. 友人・知人
3. 同じような経験をした人
4. 行政の相談窓口
5. 警察
6. 家庭裁判所
7. 医師・カウンセラー
8. 女性グループ
9. その他 ()

5 **男女共同参画社会づくりについて**

問 2 2 次の言葉のうち、見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。(複数回答可)

1. 男女共同参画社会
2. 育児・介護休業法
3. 女子差別撤廃条約
4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）
5. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）
7. リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康・権利）
8. ストーカー規制法
9. 男女雇用機会均等法
10. 男女共同参画社会基本法
11. 大泉町男女共同参画推進計画
12. 見たり聞いたりしたものはない

問 2 3 自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。
次の中から1つ選んでください。

1. できるだけ、男性になるほうがよい
2. どちらかというと、男性になるほうがよい
3. 適任者であれば、男女どちらでもよい
4. どちらかというと、もっと女性になるほうがよい
5. もっと女性になるほうがよい

問 2 4 次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。
次の中から選んでください。(複数回答可)

1. 県・市町村の首長
2. 国会議員、県議会議員、市町村議会議員
3. 国家公務員や地方公務員の管理職
4. 裁判官、検察官、弁護士
5. 大学教授
6. 国連などの国際機関の管理職
7. 民間企業の管理職
8. 企業家・経営者
9. 労働組合の幹部
10. 農協の役員
11. その他（）

大泉町 男女共同参画社会に関するアンケート調査 報告書

平成27年11月

大泉町役場 企画部 国際協働課

電話 0276-55-3700 FAX 0276-55-3701
